

# 総合学習 「岡田米PR大作戦」

H19年度 5学年 54名 作成

## 水の管理は水田の命



水田の水を管理することは水田の命を守ることにつながります。

水田の水の温度が高すぎると稲の生長をじゃまする雑草が生えてくるし、逆に水の温度が低すぎると稲が弱くなって生長がおくれてしまいます。

水田の水の温度は25度～30度がベストです。

そうすると稲も育つし雑草も生えにくくなるそうです。岡田小では水の温度を25度～30度に保つように水を加えたりして管理しています。こうして岡田米が育っていきます。

水の管理とは、一言で言うと稲の生長の度合いに合わせて水の量を変えることです。岡田米は広瀬川の新せんな水を使っています。

### <水の管理のポイント>

田植えをしたあとは、2cm～4cm水を入れます。寒さから稲を守るために日中は水を浅くして水が早く温まるようにして、夜は少し深くして、稲が寒さで弱るのを防ぐと良いそうです。

その後、約1ヵ月ほどたった段階で水をぬいて、しばらく水田を乾かします。これを中干しと言います。

稲の穂が形作られている時期には、2日～3日おきに水をためている状態を維持します。

### <水田に水を入れるのはどうしてか>

土の力を保ち、作物の病気をもたらず害のある生物を殺すためです。

